㊧ パソコンで学ぶ，遊ぶ，仕事する

県教育委員会学校教育課では，多くの先生が和文タイプを使っていました。「いいなあ。きれいな字が書けて」と思った私は文房具店に出かけました。最新型の電動タイプが 25 万円でした。買おうと思っていた私に「先生，これからはワードプロセッサーの時代ですよ」と言ったのはＩ先生でした。ひらがなを入力すると漢字に変換してくれるというのです。値段を聞いてみると，今は 400 万円ほどだけど，もうじき 100 万円になるだろうということでした。100 万円になれば買うだろうなと思ってタイプの購入を止めにしました。

本物のワープロに出会ったのは昭和 50 年代の終わりごろでした。課員が 40 名を越すという大所帯の学校教育課にたった 1 台導入されたワープロでした。順番を待っているうちに日付が変わることもありましたが，キーを打ち変換キーを押せば漢字が出てくるこの機械に，私は飛びつきました。中には，まったく触れようともしない方や清書用の機械としてのみ使われる方もありました。しかし，私は，削除したり，挿入したり，特定の語を検索して置換したり，行端変更によって図版を入れるスペースを作ったりといった機能に驚き，これこそこれからの機械だと思いました。ワープロはきれいな字を書くためのものではなく，効率よく正しい文書を作成する機械です。課内研修の講師として，ワープロを使った文書作成の実際についてお話したこともありました。こんな機能を使いこなし，仕事に生かすことができるようになってくると，私にとってはなくてはならないものになり，Ｓ社のポータブルワープロを 15 万円で購入しました。表示は 10 字×2 行でしたが，文字の質を落とせば 18 字×4 行にもでき，A4 判で約 6 ページの文書を作成することができるというのは当時としては画期的

なものでした。しかし，カセットテープへの書き込みや，それからの読み取りは順調にはいかず，フロッピーを使う機種が出るまで待たなくてはなりませんでした。

やっと購入した3.5インチのフロッピーが使える富士通製のワープロ，これが愛用の文房具になりました。何も彼もがワープロになりました。そして，使い過ぎてキーボードにガタが来たり，処理能力が向上し，機能が追加された機械が出たりするのに伴って更新し，単 3 乾電池 2 本で 10 時間も使え，スーツの胸ポケットに入るというオアシスポケット 2（右の写真）を購入するなど，結局このシリーズのワープロを5台も買うことになりました。

しかし，「先生，パソコンだともっとすごいですよ」と言われるようになりました。そして，こんなことができる，あんなこともできると説明を聞きました。しかし，昭和 50 年代に購入したパソコンの日本語変換能力に失望した経験を持っていた私は，「日本語文書の作成は専用機のほうがよい」「表計算なんてワープロでもできる」「住所録の管理はワープロの得意技だ」「ワープロによっては通信機能も持っている」と反論し，あくまでもワープロにこだわっていました。

そんな私がパソコンにしようと思ったのは平成 8 年 4 月，大量の情報が処理できる，内蔵ハードディスク(HD)の容量が大きい，画像処理ができることなどが理由でした。選んだのは，CPU が 80 MHz，HD が 670 MB の機械，早速これを注文しました。しかし，これを手にすることは

ありませんでした。心筋梗塞で入院することになった私に代わって「竹中先生が元の体になるまで，パソコンから遠ざけておくほうが良かろう。あの先生，こんな機械が手に入れば1日中使い，また体を壊してしまうに違いない」と断ってくださったのは，ご自身も心臓の病気での入院体験をもつパソコンの先輩U先生でした。

仕事に復帰した私は，改めて機種を選定して購入しました。わずか2か月の間に，CPUはPentium-133MHz，内蔵HDは1 GB，LCDは12.1インチになっていました。衛生看護科主任のH先生に，「先生，もう2時間ほど続けて使っておられますよ」とドクターストップならぬナースストップを受けながらも，このパソコンは成績処理や文書作成に大活躍してくれ，平成9年5月にはデジタルカメラを買って画像を取り込んだりすることもできるようになりました。

平成10年5月，奈良女子大学非常勤講師として「教員を目指す人たちに」と題した講義をしたときに聞いた「最近の学生はメールで就職相談をし，情報をやりとりしているのです」という話に触発され，帰り道の電器店に立ち寄り，いただいた講師謝金でモデムを購入，電話回線に接続し，メールのやりとりをするようになりました。

保存する文書が増えてくるとHDの容量の小さいことが問題になり，補助記録装置としてZIPを購入しました。しかし，根本的な解決にはいたらず，平成11年5月にはHDを4 GBのものに交換しました。

平成12年1月にはホームページ「やっぱり理科は面白い」を開設，このころから処理能力の遅さが問題になりました。いよいよ買い換え時かと，平成13年初め新しいものを購入しました。これは，CPUがPentiumⅢ-650MHz，メモリーが128 MB，HDが20 GB，CD-R/RWも使えます。そのHDさえ，満杯に使い状態になってきて動きが遅く，毎日のようにフリーズするようになりました。そして，この書のプリントア

ウトを機会に新しいものに更新しました。PentiumⅣ-2.2GHz，メモリーが 256 MB，HD が 60 GB，DVD も OK という最高のノートパソコンです。でも，この調子で進んでいけば一体どうなるのだろう，ちょっと空恐ろしくなって来ます。

パソコンは仕事の道具であり，遊びの道具であり，勉強道具です。仕事の道具としては，年間や各週の授業計画の立案，授業の準備，プリントや考査問題の作成があります。また，成績処理に大きな力を発揮してくれているのは前述のとおりです。

遊びもパソコンです。といってもゲームはフリーセル（どのパソコンにも入っているトランプを使ったゲーム）をするくらいです。私にとっては，パソコンを使って文章を書くことが遊びです。孫の誕生をきっかけに始めたファミリーニュース「すくすく」の発行も遊びの１つです。平成 7 年 6 月 27 日に第 1 号を発行したこの新聞はＡ4 判で，初めはワープロで作成していましたが，平成 9 年 4 月からはパソコンで作り始め，今はカラー写真入りになっています。私たちと同居の母，東京の長男夫婦，神戸に住む次男をつなぐこの新聞は平均 8 日に 1 回の発行，今年 8 月には 300 号を超えました。私たちの旅行の記録，孫の成長，その他家族の様々な記録が満載のこの新聞は我が家の宝物です。同じようなものには，「小路新町自治会だより」があります。お知らせやお願い，町の身近なニュースを載せたこのミニコミ紙は，2 年間に 43 回発行しました。これも自治会長としての遊びです。

学ぶこと，これもパソコンが手伝ってくれます。「この言葉にはどんな意味があるのだろう」と辞書を引くのもパソコンの仕事です。ページを繰るかわりに検索語を入力すると，すぐに見たい項目が出てきます。鳥の名前を検索し，鳴き声を聞きながら，図版やカラー写真を見ることもできます。相撲の決まり手などはアニメで解説してくれま

す。「～主義」と下の部分から検索することもできます。私にとっては手放せない辞書です。これでも駄目だったら，インターネットという手があります。一般的に認められた考えなのか，単なる私見なのかを見極めることは必要ですが，瞬時に多様な情報を手にすることができます。「読み・書き・そろばん（計算）」の力は生きるための基本的な力です。これからはこの 3 つに加えて「パソコンを正しく活用する力」が人生で必須のものとなっていくのでしょう。

平成 14 年度，私は奈良学園中学校 2 年生の情報基礎を受け持つことになりました。これは，この年からスタートした総合的な学習の時間の一部でした。この学校での総合的な学習は「卒業論文を書く」ということであり，１年生では本を読む力を高め，２年生ではパソコンを使って情報を収集し，データを整理し，文章を書くことを学びます。最高齢 67 歳の教師による 2 年生 5 クラス，週 1 時間の授業です。「なんと年寄りが…」と言われるかもしれません。しかし，「足腰が弱くなってね」とシニアカーの力を借り，「新聞の字が見にくくなってね」と老眼鏡の力を借りるように，「辞書の字は小さいからね」とパソコンで言葉の意味を調べ，拡大した字で誤りを調べる，シニア世代にこそ必要な機械ではないでしょうか。

もちろん，コンピュータリテラシーは次代を担う子どもたちにも大切です。小・中学校でパソコンの活用に慣れ，高等学校の新教科「情報」で系統的に学ぶことも必要です。子どもたちがパソコンを使う力を身につけ，道具として使いこなすようになってほしいと思います。

しかし，草原を駆け回り，崖をよじ登り，美しい花，沈んでいく夕日に感動する経験はもっと大切にしたいものだと思います。子どもたちにとっては，パソコンを使った野球ゲームより空き地での三角ベース，サッカーゲームより空き地でのカン蹴りが大切なのです。